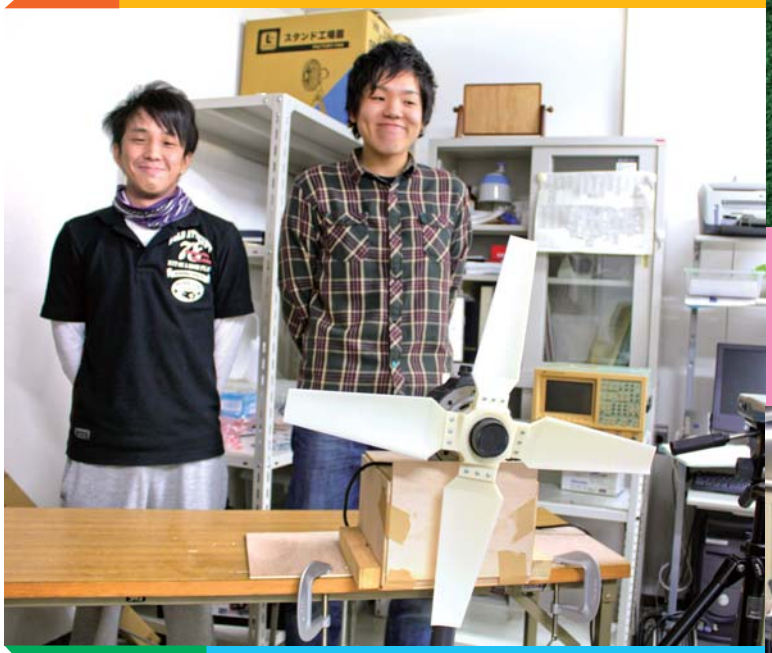
OECU NEWS

Osaka
Electro-Communication
University

大阪電気通信大学 学報
2014年 1月 10日発行
発行：学校法人 大阪電気通信大学
〒572-8530 寝屋川市初町18-8
TEL 072-824-1131(代)
http://www.osakac.ac.jp
320 号

未来に向かって突っ走る！

モノづくりに夢が膨らむ！



平成26年

新春に寄せて

福田國彌理事長

平成26年甲午（きのえうま）、2014年
新しい年となりました。

学生の皆さん、ご父母、ご家族の皆さま、ご健康で明るい新年を迎えられたことと心よりお祝い申し上げます。また、本学園内外において日ごろご支援いただいている皆さま方、ご家族ともどもご機嫌麗しく新年を迎えられたこととお祝い申し上げます。そして学園の教職員の皆さん、よき新年をご家族の皆さまと一緒に迎えられ、何よりおめでたく存じます。私ども学園の者一同、心を新たにして、大学、高等学校共に将来に向かって発展していくべく、一層の努力をいたしましょう。

私事ながら、1920年生まれの私はやがて94歳になります。

蓬莱に聞かばや伊勢の初便　　芭蕉

昨年は伊勢神宮で内宮外宮の遷宮式典が執り行われ、多くの人がお伊勢参りをされたことでしょう。そして伊勢エビ、赤福餅、伊勢うどん、などの名物も楽しまれたことでしょう。

このごろは新年早々多くの人が町に出かけますが、芭蕉はお正月の人混みを経験して

鷹を着て誰人います花の春　　芭蕉

と四条五条の繁華な京都を詠みました。最近はお正月の元旦からお店も開き、2日になるとデパートなどの福袋を求めて茶髪の若者がたくさん出かけるようになりました。私のような爺さんは家でくすぶり「日本の国はどうなるのか…」などということを一人で考えたりしています。

義務教育は6年から9年になりました。学校とは訓練をするところですが、これまでは子どもたちを甘やかして学校に来るようにして、知的トレーニングと社会マナーのトレーニングをするのを忘れていたようです。また、小さいころから英語を教育しろといいますが、英語教育とはそれを望む人に英語教育のシステムを作ってそういう環境を整えていけばいいのであって、日本人皆が英語に堪能になる必要はありません。むしろ日本語できっちり文章を作ってPresentation（発表）し、Debate（討論）してコミュニケーション能力をつけることが大事だと思っています。そのように義務教育をきっちりして、基本的能力を身につけた子どもを育てることが日本の国の特徴を保持していくことにつながります。

最近はなんでもグローバルといいますが、アメリカと同じような国にする必要はないと思います。先日のテレビでも放映されましたが、アメリカ人は自国のことは思っていますが、日本の国のことなどは考えていません。アメリカ人が観光で日本を訪れるのは自国にはない日本の文化に興味をもって、それに触れるために来るのです。

しかし、日本人は東京がニューヨークみたいになればいいと憧れ、アメリカの流行をいち早く取り入れますが、そうではなくそれぞれのことばや文化を大事にしてそれを継承していくことが大切なのではないかと思います。

最近、このようなことを踏まえて『教育百年の計』という本を書きました。著書を読んでいただきましたら爺は保守的だと言われるかも知れませんが、世界が平和になるにはまだまだ遠い道のりが必要です。それぞれの国が自国のことばや文化を大事にし、強国が弱国を支配するのではなく、小さな国も尊重された上で平和がくることが大事だと思っています。日本の教育ももっと将来を見ていくべきであり、アメリカから独立して世界平和の先進国になる必要があります。

今はお金のことや派手なことばかりに興味が集中しますが、学園は大学の使命を守って教育を大事にして学生が勉学にいそしんで日本の発展に尽くすべきだと思います。

ニもとの梅に遅速を愛す哉　　蕪村

という蕪村の句がありますが、学問というのは遅い、速い、をいわずに、大器晩成で将来大成すればなによりのことです。大阪電気通信大学の学生諸君は英語をペラペラ話すより、勉強して我が国の国家社会のために役に立つ人材に育ってほしいものです。

アベノミクスで大学がたちまち栄えるわけではなく、世の中は消費税が増えるだけです。そういう中で逆風に耐えて本当の春が来るように学生諸君は勉強して、私たちは実学を守り、国家社会の発展のために教職員一同協力して今年も頑張りましょう。

特集

キミの夢、自由自在

3D造形先端加工センター開設

最先端の工作機械で高度なモノづくりを実践

昨年10月に「3D造形先端加工センター」が開設され、金属光造形複合加工機や5軸制御マシニングセンター、ワイヤ放電加工機などの関連機器を設置しました。新しいコンセプトや付加価値の高いインテリジェントシステムの技術開発と、それに柔軟に対応できるデザイン能力の養成を目指しています。これにより自分が発想したアイデアをすぐに現実のものにすることができ、夢がかない、感動を味わうことができます。

「3D造形先端加工センター」について橘邦英学長にインタビューしました。

橘学長

オープニングセレモニー

導入

導入のきっかけ、背景は何ですか。この機器を選定された理由は何ですか。資金はどのようにして得られましたか。

近年、3Dプリンターなどの新しい技術の開発によって、「モノづくり」に革命が起きています。これまで本学は実学の大学を標榜し、モノづくりのための技術者教育に注力してきましたが、この技術の潮流を捉えて、新しい社会のニーズに対応できる技術者を育てていく必要があります。そのため、5軸制御マシニングセンター、金属光造形複合加工機、3Dプリンター、ワイヤ放電加工機を中心とした3次元造形のための先端加工の設備を整えることにしました。

平成24年度の補正予算による私学助成事業によって、タイミングよく、およそ半額の資金援助が得られたことはたいへん幸運でした。

特徴

製造工程における以前の作業内容は何が変わるのですか。それはなぜですか。

CAD（計算機支援設計）やCAM（計算機援用製造システム）といったIT技術の活用によって、熟練技術がなくても複雑な3次元構造の部品、それを組み合わせた構造や機構までが生産できる可能性がでてきました。

活用

ロボットや医療機器への研究開発に具体的な活用例はありますか。

3Dプリンターでは使用できる材料や加工精度などにはまだ制約や課題があって、実製品の製造が何でも可能という訳ではありませんが、模型に

よる形状、機能やデザインの確認などに広く活用されるようになってきています。金属光造形複合加工機では、金型の製造が可能になります。また、その中に複雑な構造の水冷管を作り込むこともできます。

さらに、チタンなどの金属粉末を材料に用いて、人工骨の製造も試みられてきています。本学では、医療機器や介護ロボットなどへの活用を大いに期待しています。

運用

先生や研究生、学生の活用を奨励するための仕組みはありますか。

これらの機械群は補助金対象の「教育用設備」として導入しましたので、主たる目的は教育用になります。したがって、学部レベルでの実験・実習や創成(デザイン)科目での活用が中心になりますが、卒業研究や修士論文での研究も教育の中に含まれます。

また、地域や産業界との連携によるアクティブラーニングやPBL(課題解決型学習)にも広く活用できればと思っています。使用にあたっては、基本的にCAD/CAMの授業や演習を受けて、設備の原理や動作を理解しておくことが必要ですので、誰でもすぐに使えるという状況ではありません。設備の活用を考えている学科や専攻では、CAD/CAM関係の講義や講習をカリキュラムの中に組み入れてもらうことを期待しています。

しかし、短期の試行的な目的などには、実験センターの技術職員が支援できるようにしたいと考えています。そのような使用も含めた利用規定については、これから当該センターの運営会議で議論して策定していく予定です。

展開

導入結果として、ズバリ何を期待されますか。夢のようなものでも結構です。

これからのモノづくりでは、「どう作るか」より「何を作るか」がより重要になってきます。つまり、コンセプトがデザインできる技術者への社会的ニーズが高まってきますので、今般導入した設備のような教育環境を整えていき、俯瞰的でシステム的な発想ができる技術者を養成できる教育システムを構築していくことを思い描いています。

3D造形先端加工センターに設置した主な工作機器

1 5軸制御マシニングセンター MX-520

取り扱い方法を修得

こんな文字もお手のもの

5軸制御マシニングセンター(MachiningCenter)とは、工作物の取り付けを変えずに、フライス、穴あけ、中ぐり、ねじ立てなどの種々の作業ができる工作機械のことを指します。この機械は、直交するX軸、Y軸、Z軸の他に、回転する軸、例えば、A軸とC軸とをもつ5軸制御マシニングセンターで、さらには、工作テーブルを高速で回転させ、主軸にバイトを取り付けて旋削ができるものや、フライス工具の代わりに研削砥石を使い、寸法計測用のプローブも搭載しています。フライス加工、旋削加工、研削加工だけでなくレーザー加工もできます。

2 高速・高性能ワイヤ放電加工機SL400G

精密に作られた部品

ワイヤ放電加工機は、ワイヤを電極として加工対象物との間で放電を行い、糸鋸で切るように、自由な形に切断することができます。原理は放電により加工対象物の表面を溶かして蒸発させることで切断します。

3 3Dプリンター FORTUS360mc-S

どんな形でも思いのまま

3Dプリンターとは3DCADデータや3Dスキャナデータ(STL)を元に、主に樹脂の層を細かく積層させて立体モデルを手軽に製作できる機械です。

FORTUS 360mc-Sは、最小積層ピッチが0.127mmのため、非常に細かい造形物を出力することができます。

カメ太くんにも挑戦

4 金属光造形複合加工機 LUMEX Avance-25

金属粉末にレーザーを照射して焼結する工程と高速切削仕上げを行う工程とを繰り返し行いながら造形する機械です。

実際には、金属粉末を0.05mm厚にした後にレーザーを照射し、それを10回繰り返した後、0.5mm厚になった時点で、エンドミルで造形物の輪郭を高速・精密に切削します。造形終了後の金属粉末は回収し再利用が可能です。

レーザーで超精密に加工

プログラムでコントロール

ITディスカッションテーブル

平成24年度私立大学教育研究活性化設備整備事業による導入

パソコンを用いた情報処理教育「電通大方式」を1978年に開始し、積極的に実施してきましたが、35年たった今、この方式を基盤としてグループワーク、思考ツールを利用した新たな教育システムであるITディスカッションテーブルをメディアコミュニケーションセンターに10台導入しました。

「ITテーブル」について橘学長に質問しました。

コミュニケーション能力を高め課題を追求

以前は紙をベースに行っていたグループワークに、このITテーブルを使うことのメリットは何ですか。

発想法としておなじみのブレーンストーミングやKJ法では、従来、紙片(カード)などにキーワードを書いて、それをたくさん集めて整理していくことで、グループでの考えを取りまとめていく方法が使われてきました。

今般導入したITテーブルでは、それをテーブル型のマルチタッチパネル上でできるように、アプリケーション・ソフトを開発しました。

画面が大きくきれいなので利用範囲が広がりますが、どのようなことに利用できますか。

このITテーブルでは、自作のマンダラートやライセンス契約しているマインドマップのようなソフトを利用して、図解による思考法も実践できます。

また、発想や思考のツールとしてだけでなく、コミュニケーションツールとしても活用できますので、講義だけでなく基礎ゼミやプレゼミなどでも利用してもらい、グループワークを通してのコミュニケーション力やリーダーシップの養成に活用してほしいと願っています。

ITディスカッションテーブルを活用したキャリア概論の授業では「自由にアイデアを生み出すことができ、コミュニケーションをとることでうまくまとめることができた」などの意見が出ていました。

ITテーブルを使用している様子

研究開発を支援する装置の導入

1 400MHz超伝導フーリエ変換核磁気共鳴装置

物質の核磁気共鳴を利用し、液体状・固体状の化合物の構造を決定できる装置。

この装置により、自然界の有機化合物や遺伝子・たんぱく質など幅広い物質の立体構造を分析することができます。

2 光脳機能イメージング装置

光脳機能イメージング装置

人間の脳内にある酸素化ヘモグロビンの量を計測する装置。

これらを可視化することで、学習・運動・遊びなど日常的な状況における習熟度や学習程度などを定量的に評価することができます。

3 ナノ粒子物性解析装置

微粒子などのナノ材料がもつ表面電位・電荷や粒子・分子形態を多面的に測定・評価できる装置。

最先端のナノテク材料開発や、省エネルギー材料の開発などの研究において、活用が期待されています。

4 赤外線動的応力・歪み測定装置

機器の設計にあたり、動的応力と歪みを最先端の手法で測定できる装置。

これにより高速回転機械や義肢装具・義歯などの動的応力と歪みも簡単に高速計測することができます。

学科のいいね！ VOL.1

大阪電気通信大学の各学科などでは、ハード、ソフトの両面から工夫を凝らした取り組みを行い、学びを深めるサポートをしています。その中から今回４つの「いいね！」を紹介します。

資産運用学科

※現アセット・マネジメント学科 2014.4に名称変更予定

㋑テレビ局の取材を受ける寺田学部長
㋺Bloomberg端末を操作する学生

市場との対話

大学では経済学、経営学など社会科学系の分野は「文科系」と分類され、一般には数字化された情報のやりとりや解析とは縁の遠いものと思われている時代がありました。

この状況はここ20年ほど急速に変化を遂げ、金融・市場の分野では「理系・工学系」のバックグラウンドを持った人たちの活躍の場が急速に広がっています。

実務の世界でも企業ファイナンスや資産運用、リスクヘッジなどの意思決定を長年の経験や勘に頼って行う、そして世界中の株式、為替、金利、商品、企業情報に関する情報を限られた専門家たちが独占的にやり取りして相場を「動かす」時代も完全に過去のものになりました。

そこで本学では、金融資産の運用に必要不可欠な最新の市場動向の情報源として、メディアセンターにBloomberg端末を12台導入し、24人が同時に世界金融市場にアクセスできる実学環境で育成しています。

株価の変動が即時にチェックでき、膨大な金融情報をリアルタイムで入手することができます。このビッグデータもSAS®グローバル認定プログラムの資格取得により、高度なデータ処理技術を身につけることができます。

金融経済学部がこれから脚光を浴びる教育の場として、また、Bloombergは資産運用に有力な金融データが得られるシステムとして、近年多くの方々の見学やテレビ局などからの取材を受けています。

英語教育センター

多読で誰でも英語力が自然と身につく

図書館には英語多読コーナーがあり、数千冊の多読用書籍が並んでいます。これらの本を用いた英語多読教育（リーディングシャワー）を一昨年から実施しています。多読の目的は「多くの英文に触れること」そして「英文を英語のまま理解すること」です。難しい本ではなく子ども向けの簡単な絵本から少しずつレベルアップして読んでいけば、英語を読む習慣が身につき、これらの目的を達成できるようになります。

「多読」は、細かな語句や文法に注意して訳しながら読む「精読」と違い、易しめの本をざっと読んで8割程度の内容を理解する読み方です。基本的に全体の内容理解が中心で、読書スピードや理解度の向上が期待でき、実際に本学でも成果が出ています。多読のポイントは次のとおりです。

リーディングシャワー・コーナー

- 辞書は引かない（読み終わってから引く）
- わからない単語は飛ばし、わかる部分をつなげて読む
- つまらなかったら（難しかったら）別の本に替える

学生から「これなら自分にもできる!」「楽しい!」と好評のリーディングシャワーは、今後も実施クラス数を増やしていく予定です。

英語教育センターと図書館が共同で取り組んでいるリーディングシャワーの表彰式が行われ、昨年度クラス最高累積語数を収めた学生6名に、元場俊雄前図書館長からリーディングシャワー優秀賞が授与されました。

元場前図書館長（右から3人目）と受賞者

英語で世界に羽ばたこう!

2013年9月より本学特任講師カルモナ・ダニエル先生が、英会話を上達させたい!英語でのプレゼンテーション本番前に指導を受けたい!という学生たちの希望に応えるために、研究室を訪問し、英語指導を行っております。

教育開発推進センター・英語教育センターが企画したこの「グローバル人材育成のための英語教育プログラム」には、院生・卒研生が学会発表や就職にそなえて、熱心に参加しています。参加者からは「指導を受けるごとにモチベーションが上がり、英語でのコミュニケーションに自信がつきます」という感想が寄せられています。このプログラムに、学生の参加を募っています。

川口研究室にて

デジタルアート・アニメーション学科

産学連携でプロが専門技術を指導

四條畷キャンパスの先端マルチメディア合同研究所（JIAMS）では、産学連携体制により学外から誘致した“本物の仕事”を体験しながら社会性を育成しています。ゲームやアニメーション、映像や音像などのクリエイティブ分野では、企画・マーケティング（思い描く）、制作（創る）、情報発信・プロデュース（伝える）に必要な幅広い知識と技術を身につけたプロの教育集団がさまざまな実制作プロジェクトを通して指導しています。

これにより、四條畷キャンパスでは、2学部、6学科の学生がさまざまなアプローチで研究に取り組むことができます。

総合情報学部デジタルアート・アニメーション学科では「アート&アニメーション」を軸に、デジタルゲーム学科では「ゲーム」を軸にしたコンテンツ系の研究が進められており、情報学科での「コンピュータサイエンス」を軸にした情報系の研究とも融合し、社会のさまざまなニーズに対応できるクリエイティブな人材を育成しています。

関西最大級のモーションキャプチャースタジオ

モーションキャプチャーとは、人間の動作をCGの人物キャラクターに反映させて、より人間に近い動きを実現させる仕組みです。モーションキャプチャースタジオ内に設置された12台のカメラで10㍍以上離れた、4㍉のマーカーも確実に捉えて、より広くより複雑な動きをより高い精度で短時間に処理することができます。これによりリアルな動作を表現することができ、制作期間も短縮することができます。

モーションキャプチャースタジオ

映像編集スタジオ

最高品質での映像編集スタジオ、音像編集スタジオ

SONYのHDCAMやHDでのフルデジタル映像編集環境、大型ブルーバックスクリーンなど放送局やプロダクションのプロの現場で活用される機器を完備。放送レベルの映像を、撮影から編集までスムーズに行えます。

時代の先鋒をゆくコナミホール

学園のデジタル文化シアターとして式典・講演会・音楽会・演劇などさまざまなイベントに利用でき、バリアフリーステージを備えた950人収容の大ホールです。

コナミホールは、マルチメディアホールとしての機能と、研究施設としての機能を併せ持った最新の施設です。デジタルサウンドシステム、高品位映像システム、マルチメディアシステム、ハイパーメディアネットワークシステムなどを備えています。

Panasonic講座

電気電子工学科

企業との連携講座で実学を学ぼう

工学部電気電子工学科と企業との「連携講座」を今年度後期は「三菱電機講座：パワーエレクトロニクス応用」、「Panasonic講座：画像・映像工学、新エネルギー工学」、「きんでん講座：送配電工学」で、各会社の第一線で活躍されている方々が講師となり、電気電子工学の応用技術について講義していただき、活きた実学教育を進めています。

Panasonic講座の「新エネルギー工学」では再生可能エネルギーは産業社会をどう変えるか、という題で太陽光発電技術研究組合の桑野幸徳氏（本学理事）に企業人の立場で講演していただきました。地球環境問題とエネルギー資源の状況、膨大な太陽エネルギーをどう活用するか、など具体例を交え説明していただきました。講義は一方的に先生からの話を聞くだけでなく、質問なども積極的にして、ディスカッションできる力をつけるための工夫も加えて実践されました。なお、前期には「日本電設工業講座：電気鉄道」を開講しました。

参加した学生からは「現場第一線の動きを分かりやすく説明していただき、より理解が深まりました。設備の開発、維持管理についていろいろ考慮されているところがすごいと思いました」という感想がありました。

注目のリチウムイオン電池の研究開発

電気電子工学科伊與田研究室において、臼田昭司客員研究員（ベトナム・ホーチミン工科大学客員教授）と学生が、リチウムイオン二次電池の試作開発に取り組んでいます。リチウムイオン二次電池の試作は材料の調達や特殊な製造装置が必要で、大学の研究室レベルでの試作は難しいとされています。しかし、伊與田研究室では臼田研究員と関係ある中国企業の協力を受け、学生の教育研究環境を整備し開発を行っています。

研究室では、国内外から必要不可欠な機器や機材を導入して、捲回方式（Winding方式）を取り入れたコイン型リチウムイオン電池（電池容量40mAh）とラミネート型リチウムイオン電池（電池容量1000mAh）の2種類を学生が主体になって製作しており、ものづくりを実感しています。

この教育研究は、平成25年度の電気科学技術奨励賞を受賞しました。

リチウムイオン電池の開発

第2回フリースケール・カップ日本大会において 3位入賞

チーム「ザ・レイモンド」

9月21日、22日の2日間、富士スピードウェイで開催されたフリースケール「第2回フリースケール・カップ日本大会」で、総合情報学部情報学科南角研究室3年生のチーム「ザ・レイモンド」が3位に入賞しました。

この大会はフリースケール・セミコンダクタ・ジャパンが主催する最大級の日本国内競技会で、若手の技術向上を図る場として高等専門学校や大学が参加しています。学生がチームを結成して最先端の半導体技術を使い、マイコン制御で自律走行するモデルカーで、コース周回の正確さとスピードを競うものです。

今回の大会には日本全国の8校10チームの学生が参加しました。

2013年度セーフティアセッサ資格認証試験で 3人が資格を取得

8月2日に行われた2013年度セーフティアセッサ資格認証試験で、鄭研究室工学研究科の高原郷司さんと神埜奨太さん、電子機械工学科の樫原純人さんが「セーフティサブアセッサ」資格試験に最終合格し、同資格を取得しました。

この資格試験は、機械安全、電気安全、制御安全について、グローバルに通用する安全技術や、その考え方を理解する技術者や管理者の育成を目的として設けられたものです。機械設備や生産システムの安全設計、IEC／ISO規格に基づく本質安全について、安全性の妥当性を評価できる人材であることを証明するものです。

この資格を取得するには、「国際安全規格に関する学科試験」、「リスクアセスメント実技試験」の2試験に合格する必要があります。

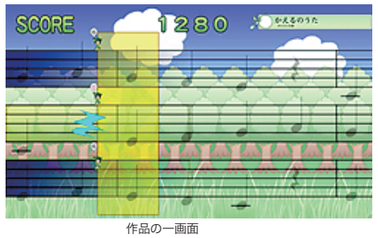
これで、この資格を取得した学生は、2011年に取得した奥野耕平さんと、2012年に取得した野口慎司さん（いずれも現工学研究科）と合わせて5人になりました。

高見研・濱口さん TGS関連イベントでプレゼン

東京ゲームショウの関連イベント「センス・オブ・ワンダーナイト(Sense of Wonder Night)2013」のプレゼンテーション企画に、高見研究室・濱口健太さん=写真=の作品「カポラッチカさん」(Kapolachica-san)が選ばれ、9月20日、千葉・幕張メッセの特設会場で発表しました。

「センス・オブ・ワンダーナイト 2013」は、新たなゲームアイデアの発掘イベントで、ゲーム開発者にスポットライトを当て、誰もが自分の世界が何か変わるような感覚「センス・オブ・ワンダー」を引き起こすようなゲームのアイデアを発掘し、東京ゲームショウでプレゼンテーションの機会を提供する企画です。今回は、23の国・地域から125作品がエントリーし、そのうち10作品が選出されました。

「カポラッチカさん」は、楽器演奏とゲームを融合させようという試みで、いろいろな楽器を演奏する楽しさ、音を出すことのうれしさ、合奏する気持ち良さ、上達する喜びを表現できるよう工夫されています。楽器から出るいろいろな音の音階をリアルタイムで検出し、和音も検出して、その結果をゲーム画面の制御に使います。本来は曲を演奏するための楽器が、ゲームコントローラになって、ゲーム画面が楽しく気持ちよく曲のように流れていきます。



作品の一画面

電子機械工学科・近藤さん ヒト型レスコンで電通大杯獲得

電通大杯を手にした近藤さん

11月3日、大阪電気通信大学駅前キャンパスで開催された「電通大杯 ヒト型レスキューロボットコンテスト2013」で、大阪電気通信大学自由工房から参加した近藤史さん（電子機械工学科1年）が、目視部門で1位となり電通大杯を獲得しました。

ヒト型レスコンは、ヒト型ロボットによる災害救助をテーマにしたロボットコンテストです。ヒト型ロボットを遠隔操縦して、約4m×2mのフィールド内で「トンネルくぐり」「段差乗り越え」「ガレキ除去」「要救助者搬送」の4つのタスクを順にクリアし、かかった時間の短さに、審査員の評価を加えて競います。今回から、目視で操縦する「目視部門」と、搭載カメラの映像のみで操縦する「搭載カメラ部門」に分かれました。

競技中の近藤さん

競技には全国から集まった大学生を中心に社会人も加わって10人が参加し、ファイナルミッションには各部門3人、計6人が進んで、電通大杯を競いました。

◉【順位】(氏名、所属)
・目視部門
①近藤史(大阪電気通信大学自由工房)②久保田和希(産業技術短期大学)
③高嶋大樹(大阪産業大学ロボットプロジェクト)
・搭載カメラ部門
①Zeno②緒方和馬(九州工業大学)③今川拓郎(ウィンストン(株))

「第12回MADE IN OSAKA CM AWARDS」で 優秀賞を受賞

大阪広告協会が主催する映像コンテスト「第12回MADE IN OSAKA CM AWARDS」の学生部門で、総合情報学部デジタルアート・アニメーション学科の市田俊介さん（監督）、清遠哲史さん（撮影）、小網 暖さん（編集）が制作した「コマーシャルフィルム概論」の課題作品がTVCM優秀賞を受賞しました。

受賞した作品は、小林製薬糸ようじのテレビコマーシャル「どんな汚れも逃さない」15秒版です。応募総数59本の中から選ばれ、授賞式は11月27日、サンケイホールブリーゼで行われました。

右から小網さん、市田さん、清遠さん

高見研・福井俊介さん「巨大！ LEDキューブパズル」 神戸ビエンナーレで展示

幻想的な雰囲気をかもしだすキューブ

神戸ビエンナーレ2013 アートインコンテナ国際コンペティションに入選した、総合情報学部デジタルゲーム学科・福井俊介さん（高見研究室）の作品「巨大！ LEDキューブパズル」が、10月1日から12月1日まで神戸のメリケンパークで展示されました。

作品は、LEDテープを用いた巨大なサイコロのパズルゲームで、転がすと、ある規則に従って色が変化します。転がしてパズルを解き、サイコロの光によって描かれるコンテナ全体の色彩変化も楽しめます。

アートインコンテナは、アーティストの自由な発想で、40ftコンテナという限られた空間内に凝縮したアートの力と可能性を表現しています。コンペでは、138作品の中から25作品が入選しました。

工学部伊與田教授と臼田客員研究員 電気科学技術奨励賞を受賞

工学部電気電子工学科の伊與田功教授と臼田昭司客員研究員が、公益財団法人「電気科学技術奨励会」の電気科学技術奨励賞を受賞しました。授賞式は11月27日、東京学士会館で行われました。テーマは「リチウムイオン電池の製作研究に関する研究指導」です。

電気科学技術奨励賞（1993年までオーム技術賞（OHM Technology Award））は1952年より開始され、わが国の電気科学技術に貢献した功労者に授与し顕彰しています。

筆頭者として受賞した臼田研究員（左）と伊與田教授

授与式の出席者（敬称略）
前列左から：安、藤﨑、（橋学長、福田理事長）、河村、元場／後列左から：（網屋法人事務局長）、水本、瀧川、小澤、西原、島田

10氏が名誉教授に

昨年3月末に退職した元場俊雄氏ら10氏に、9月2日、名誉教授の称号記が授与されました。（敬称略、カッコ内は退職時）

元場俊雄（工学部数理科学研究センター教授）
奥村康昭（工学部基礎理工学科教授）
河村嘉顯（工学部電気電子工学科教授）
瀧川靖雄（工学部電気電子工学科教授）
藤﨑紘久（工学部電気電子工学科教授）
安 弘（工学部電子機械工学科教授）
島田尚一（工学部機械工学科教授）
西原一嘉（工学部機械工学科教授）
小澤一雅（情報通信工学部情報工学科教授）
水本雅晴（情報通信工学部情報工学科教授）

新任教員 ▼ 9月16日

疋田 真一（ひきた・しんいち=工学部電子機械工学科講師）

1996年大阪大学基礎工学部システム工学科卒業。98年同大学院博士前期課程基礎工学研究科物理系専攻修了、2002年同博士後期課程基礎工学研究科システム人間系専攻修了、広島市立大学情報科学部助手。07年同大学院情報科学研究科助教。40歳。

イベントニュース

第53回大学祭が11月2日(土)～4日(月・休)の3日間、寝屋川キャンパスで開催されました。また、大学祭に併せてホームカミングデー、テクノフェアなどのイベントも開催され、学生や卒業生、近隣からの親子連れで終日にぎわいました。

大学祭

中庭でのオープニング

第53回大学祭オープニング

大学祭のテーマは「わっしょい!!!」。「ただひたすら無我夢中に楽しんでほしい」との意味を込めたものです。2日、中庭で行われたオープニングで、橘邦英学長、高岡大造学生部長、川口明良友電会副会長らがあいさつし、足立諭紀大学祭実行委員会委員長の開会宣言で、3日間のお祭りがスタートしました。

東北支援の「su pareja」出店

大学祭には、昨年に続いて学生有志による東日本大震災復興応援店舗「su pareja」(スペイン語で「あなたの相棒」)を出店しました。

su pareja

この店舗では、被災地の岩手県立宮古水産高校の生徒たちが「地域のために何かできることをしたい」との思いから、開発・企画した復興応援商品「いわて宮古の海プリン」と、NHK朝の連続テレビ小説「あまちゃん」で紹介され有名となった岩手県久慈市周辺の郷土料理「まめぶ汁」を販売しました。

この販売による収益金は、東日本大震災の義援金として寄付されました。

ホームカミングデー

寝屋川キャンパスに卒業生が集い、恩師と再会し在学生との交流を深める「ホームカミングデー」が11月2日、開催されました。

まず式典が弓館6階小ホールで開催されました。式典は橘邦英学長の歓迎の言葉、福田國彌理事長のあいさつのあと、ネジのトラブルを解決する工具「ネジザウルス」で有名な(株)エンジニア代表取締役社長・高崎充弘氏が「モノづくり企業を活性化させる4つの秘訣」をテーマに特別講演し、同社のモノづくりの原点である「MPDP理論」などを披露しました。

会社のキャラクターを手に講演する高崎氏

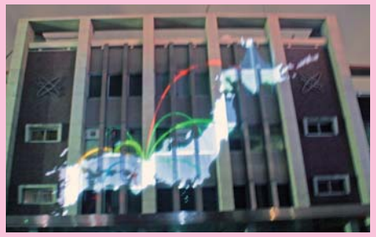
特別講演のあと、3D造形先端加工センター、J号館コンピュータ演習室、エレクトロニクス基礎研究所の見学会が行われました。

説明を聞く友電会の皆さん

10月にオープンした「3D造形先端加工センター」では、3Dプリンターなど最先端の工作機械の実演を熱心に見学しました。

夕刻にはZ号館で、友電会と大学との懇親交流会「サロンパーティー」が開催されました。

続いて日没後には、A号館前で、JIAMS(先端マルチメディア合同研究所)が制作したプロジェクションマッピングが実施され、A号館の壁に大学歌をアレンジした画像やグラフィックが次々と映し出されました。上映後、「今夜のプロジェクションマッピングは卒業生の皆さんへの私たちからのプレゼントです」とのアナウンスに、歓声と拍手が沸き起こりました。


A号館の壁に浮かび上がった日本列島

テクノフェア in ねやがわ

見る！触れる！学ぶ！体験イベント「第6回テクノフェアinねやがわ」が11月3日(日)、寝屋川キャンパスと寝屋川市駅前キャンパスで開催され、約3000人が訪れました。

この日は午後から雨模様となりましたが、終日、親子連れでにぎわい、順番待ちの子どもたちであふれかえるコーナーが続出する人気ぶりでした。

また、今回目新しいのが、レーザー光で金属粉末を溶かして造形する光造形複合加工機や5軸制御で超精密に切削する5軸制御マシニングセンターなど最先端工作機械(3Dレーザー加工機)で、当日の実演では参加者が熱心に見学していました。

写真左上から時計回りに、最先端の工作機械を見学、CG合成体験、オルゴールの製作、学長理科教室

公開講座 世界最強！ネオジム磁石はこうして生まれた

【略歴】
1966年神戸大学工学部電気工学科卒業。68年同大学院修士課程(電気工学)修了。72年東北大学大学院博士課程(金属材料工学)修了、工学博士。富士通(株)入社。82年住友特殊金属(株)(現日立金属(株))入社。88年インターメタリックス(株)設立、代表取締役社長。2012年最高技術顧問。

日本のノーベル賞と言われる「日本国際賞」を2012年に受賞した佐川眞人博士=**写真左**=による特別講演「世界最強!ネオジム磁石はこうして生まれた」が9月30日、寝屋川市駅前キャンパスで開催され、学生や教職員、一般市民約250人が聴講しました。

日本は磁石に関する世界トップレベルの研究・発明が行われてきた数少ない国で、その中でも佐川博士は1982年に世界最強の永久磁石である「ネオジム磁石」を発明しました。この磁石は、現在ではハイブリッドカー、ハードディスクドライブ、携帯電話、DVDプレイヤー、エアコンのモーターなど、非常に広い分野で使われています。

この講演では、まず磁石の原理をわかりやすく解説し、ネオジム磁石の発明と工業化に至る過程が紹介されました。また最後に、佐川博士は、技術者、研究者や、それらを目指す学生たちへの熱い思いを、メッセージとして披露されました。

message

これからの日本は科学技術立国で生きていかねばなりません。学生の皆さんは、大学では基礎的なことをしっかり勉強してください。社会の真のニーズを探し、そのニーズに真っ向から取り組んで解決策を見出そう。そのために考えて、考えて、考え抜く習慣を持つこと。空いている時間はいつも考えているようにしよう。安易に妥協しないで、社会が何を必要としているか、いつも考えるようにしよう。

公開講座

資産運用フォーラム

金融経済学部資産運用学科(4月、アセット・マネジメント学科から名称変更予定)による公開講座「2013資産運用フォーラム」が9月23日から1月27日まで、全15回の予定で、寝屋川市駅前キャンパスを会場に開催されています。

講師は、毛利益之氏(資産継承コンサルタント、大阪電気通信大学客員教授)ら金融・経済界の第一線で活躍する10人の方々です。

市民夜間講座2013

金融経済学部によるOECU社会人アカデミー市民夜間講座2013「資産運用の基礎力養成講座」が11月14日から12月12日まで5回にわたって寝屋川市駅前キャンパスで開催されました。

講師は金融経済学部の中井正彦教授ら同学部の5人で、「資産を守るための視点とノウハウ」について講演しました。

NISA特別講座

金融経済学部資産運用学科では、12月7日、寝屋川市駅前キャンパスで資産運用フォーラム(NISA特別講座)を開講しました。

講師にはSMBC日興証券(株)ソリューション企画部証券税制・相続業務推進室の植村繁氏を招き、「NISA講座:2014年1月からスタートするNISA(少額投資非課税制度)の活用方法をわかりやすく解説」をテーマに行われました。

機械工学フォーラム

機械工学フォーラム(産学連携公開講座)「日本発ものづくりとグローバル事業展開」が10月2日から1月8日まで全11回、寝屋川市駅前キャンパスで開催されました。

第1回は、福田國彌理事長が「若い人たちに託したいこと!」<日本覚醒変革論>をテーマに特別講演し、第2回以降は新日鐵住金(株)顧問の松宮徹氏(本学理事)ら鉄鋼、造船、自動車、家電など日本を代表する経済人が講演しました。

プレプロフェッショナル教育「臨床医工学入門」を開講

8月20日から4回のスケジュールで、大阪電気通信大学と武庫川女子大学、大阪薬科大学、関西大学、藍野大学、奈良先端科学技術大学院大学が広域大学連携授業として、プレプロフェッショナル教育「臨床医工学入門コース」を開催しました。

このうち9月9、10日は寝屋川市駅前キャンパスを会場に行われました。9日は医療福祉工学部医療福祉工学科の森本正治教授が「高機能義足、下肢装具による歩行機能再建の現状を実物で紹介すると共に、組み込んだ力学量センサによる歩行運動の測定」について講義しました。

プレプロフェッショナル教育「臨床医工学入門」講座は、医学・工学・情報学の目覚ましい

森本教授による講義

発展により、各分野を融合した研究領域が新たな学問として脚光を浴びています。しかし、すべての分野を理解した人材が少ないのが現状であり、医工学研究を推進していくための研究・教育および人材育成へのニーズが高まってきています。このプログラムでは、学部学生を対象として、医工学研究領域を十分に理解し、即戦力もしくは付加価値の付与された職業人として活躍し得る人材育成を目的としています。

◉講義内容

▽8/20「生体情報計測学」▽8/21「循環器領域における生体システム学」▽9/9「運動機能・感覚機能領域における生体システム学」▽9/10「医療における情報学」

東日本大震災 復興支援プロジェクト 活動報告

みんなで笑顔と希望を…

PiKAPiKA宮古プロジェクト2013

東日本大震災復興支援として、「PiKAPiKAの光で宮古市民の方々に笑顔や希望を」との願いを込めて、2012年に引き続き「PiKAPiKA宮古プロジェクト2013」を実施しました。

その第1弾として、9月11日、岩手県宮古市立津軽石中学校、岩手県立宮古北高等学校と三陸鉄道田老駅ホームで、PiKAPiKAワークショップを実施しました。

このワークショップは、文部科学省の全国生涯学習ネットワークフォーラム（まなびぴあ）のフィールド・ワークとして実施されたもので、総合情報学部・ナガタタケシ准教授の指導の下、大阪電気通信大学と盛岡大学、富士大学の学生たちが運営に参加しました。

復興支援／ハガキ1000枚を寄贈

東日本大震災復興支援として、PiKAPiKA宮古プロジェクト2013に参加している学生が、岩手県宮古市立津軽石中学校にハガキ1000枚を寄贈しました。

寄贈したのは、医療福祉工学部の下貴美子さん。贈呈式は、9月12日に津軽石中学校で行われました。

遠くに引っ越してしまった友人や、ボランティアや交流を通じて新しくできた友人、近くにいるけれど思いを伝えられない人など、いろんな人とつながってほしい、電子機器が普及している時代でもずっと残し続けられるものを贈りたい…との思いで贈られたものです。

笹川正校長から「子どもたちに下さんの思いを伝えて、有効に活用させていただきます」とのお礼の言葉がありました。

下さんは、2011年の夏休みに実施された学生と教職員有志による宮古市でのボランティア活動に参加しています。

笹川校長に八ガキを手渡す下さん

日本の文化に触れる　留学生向け日本文化講座2013

協定校留学生向けの日本文化講座2013が6月から実施されました。最終回は1月18日に行われる予定です。この講座には中国からの留学生に加え、オランダ・ユトレヒト芸術大学、韓国・湖西大学校からの留学生も参加しました。

9月28日の講座「書道」では、菊池先生から「日本人の暮らしの中の書道、日本の書道の歴史、ひらがなの歴史、年賀状とは」などのテーマの講義を受講した後、ひらがなの書き取りや毛筆を使った書道に取り組みました。また、うちわにも毛筆で思い思いの文字を書き、日本文化を楽しみました。

11月16日には、四條畷市の調理実習室で「そば打ち」を体験しました。田原蕎麦打ちクラブの講師・大嶋先生から「そばの由来」や「そば道の精神」をテーマに講義を受けた後、めん棒や大きな包丁を手にし、神妙な面持ちでそば打ちに挑戦する留学生の皆さん

そば打ちを体験しました。実習後は、打ちたてのおそばをみんなで食べました。

◉講義内容

▽日本舞踊、西川美紀先生（非常勤講師）▽書道、菊池美穂先生▽華道、岡本正甫先生▽そば打ち、大嶋勉先生（田原蕎麦打ちクラブ）▽昔ばなし、勝田数子先生（四條畷お話の会）▽茶道、中村宗記先生▽和紙・ちぎり絵、吉田京子先生

短期学生 留学プログラム2013 終了報告会

世界の広さを知り 日本との違いを痛感

9月24日、福田國彌理事長、橘邦英学長らが出席し「短期学生留学プログラム2013」の報告会が行われました。

韓国・湖西大学校への留学は8月23日から9月1日までの10日間行われ、8人が参加しました。また、中国・北京科技大学への留学は9月2日から9月11日までの10日間で、3人が参加しました。

韓国・湖西大学校へ留学した学生は「生活、食べ物など異文化に触れ、数多くの知識が得られた」「2年間の徴兵制に参加した学生から『今まで勉強したことを忘れるほどに厳しく鍛えられた』と聞き、自分の置かれている環境の中で前向きにやろうと努力していることに関心を持った」「上下関係が厳しく親を尊敬している様子が、日本の友達感覚で生活しているところと違う」などと感想を述べ、環境の違いや勉強に対する気力が高いことを痛感していました。

中国・北京科技大学へ留学した学生は「周りの皆さんの努力で中国語の単語が理解でき、生活で困らない程度に勉強ができた。観光地でも中国人の対応の仕方や特徴がよくわかった」と話していました。

総合情報学部 アムステルダム応用科学大学と 学術交流協定を締結

協定書を手にする上善学部長

総合情報学部（上善恒雄学部長）は、オランダのアムステルダム応用科学大学School of Design and Communication学部との間で、学生及び教職員の学術交流を目指す学術交流協定を締結しました。協定書は9月にそれぞれ現地で調印、交換されました。

アムステルダム応用科学大学からは、2012年4月にCees Rijsenbrij氏(Dean,Department of Information technology & computer Science studies)ら一行6人が四條畷キャンパスを訪れ、先端マルチメディア合同研究所（JIAMS）などを見学し、当時の総合情報学部長だった登尾啓史教授、魚井宏高教授（国際交流センター長）らと懇談・協議しました。その後、魚井教授が在外研究員として同大に滞在した縁もあって、学術交流協定を結ぶことになりました。

連続7回目 東京ゲームショウ2013に出展

総合情報学部は、9月19日～22日の4日間、千葉市の幕張メッセで開催された「東京ゲームショウ（TGS）2013」に出展しました。2007年に出展して以来、連続7回目の出展で、会期中のブース来訪者は1000人を超えました。

今回のショウには、デジタルゲーム学科に加えデジタルアート・アニメーション学科も参加し、学生が制作した両学科の紹介映像を演出するなど、総合情報学部全体をPRする出展としました。出展されたのは、学内の1次・2次審査を通過したゲーム部門7、イラスト・動画部門3の計10作品です。

前半2日間のビジネスデイには、求人を意識した企業関係者の来訪も多く、企業説明会への参加を打診する企業や、総合情報学部だけでなく理学療法学科など他学科についての相談も寄せられました。また、海外からの来訪者も目立ち、中国上海テレビ局による取材もありました。

主催者（一般社団法人コンピュータエンターテインメント協会）によると、4日間の全体の来場者数は27万人を超え、過去最高を記録しました。

出展作品一覧

ニンジャ!	阪井智紀、矢野和秀 藤原史夏、吉川尚摩 中西明日香、瀬川大地 藤原流星、岡村大輝
勇者HERO	閆伯倫、劉奇、邵晗、張峰
雪魔法迷宮	原田樹、川端友也 脇浜亮太、春名敦人
Direcshot	宮崎康平、木村純也、坂上勝俊
不思議の国のArito	デジタルアート・アニメーション学科サウンドデザイン研究室 山田祐子　他13人
電ch! プロジェクト	電ch!プロジェクトチーム
摩訶大将棋	飯田聡、田村一樹 甲斐誠也、大野峻
デジタルマトアテゲーム	太田治樹、濱口健太 田村一樹、大杉友哉
オカリナ演奏ゲーム	濱口健太、太田治樹、福井俊介
LEDテープラリー	福井俊介、濱口健太 佐田順平、甲斐誠也

学生レポート

ゲーム完成へのスパイスは「おもてなし」

総合情報学部デジタルゲーム学科　宮崎康平

「私はゲームを作っています」。デジタルゲーム学科の学生でこう言える人は多分たくさんいると思います。しかし「私はゲームを完成させました」と言える人はあまりいないのではないでしょうか。それほどゲームを完成させるのは難しいということを、今回の東京ゲームショウ2013（以下TGS）に出展して改めて知ることができました。

ゲームを完成させるのに必要な要素はたくさんあります。ゲームのシステムやグラフィック、ステージや敵キャラクター、さらにバグが出ないということも大切です。私たちはそれらの要素を練りに練ったゲームを作りTGSに出展しました。

いざTGS1日目（ビジネスデイ1日目）が始まってみると大変でした。お客さんが興味を持ってくれています。私はお客さんの横でゲームの説明をします。タイトルでの操作、メニューでの操作、ゲームスタートの仕方、弾の撃ち方、回転の仕方、移動方法、ゲームの目的などなど順番に説明していきます。ひと通り説明し終わったらお客さんのプレーを見守ります。急に敵が出てきた時はその都度説明します。1アクションにつき1説明です。明らかに説明し過ぎです。しかし、私の作ったゲームはそこまで説明しないと分かってもらえないゲームだったのです。展示して初めて気がつきました。あまりにもゲームをプレーしてもらう人への配慮が足りていない作品だったのです。かろうじてゲーム部分は遊べるものであっても、これは完成品と呼ぶにはほど遠い存在であるのは明らかでした。

スタッフの皆さん（前列左から3人目が宮崎さん）

私はこのゲームを面白くするために強い敵を作ったり、たくさんの武器を実装したりしました。ステージも2つ用意してパワーアップアイテムやボーナスゾーンも用意しました。しかし、ゲームをプレーする人に対しての配慮は全くと言っていいほどしていませんでした。強い敵は倒し方が分からないし、武器はどういう性能かは使ってみないとわからない。ステージは難しすぎるし、パワーアップアイテムの取り方が分からない。ボーナスゾーンは何をしていいのか分からないといった具合です。冷静に考えると、これで面白くするためとはよく言えたものです。ゲームを面白くする以前にプレーしてもらえるように工夫すべきでした。

今回私はTGSに出展してたくさんのことを学びました。ここに記したのはほんの一つのことです。しかし、とても重要なことです。ゲームはプレーしてくれる人がいて初めて成立します。だからプレーしてくれる人をおもてなしするのは当然だと思います。その部分の配慮が欠けた作品を出してしまった事が少し悔しくもありますが、この経験を活かし今後はよりよい作品を作っていこうと思います。

本学ではTGS出展の機会があり、本学の学生なら誰でも挑戦できるようになっています。このような貴重な経験ができる機会は少ないのでぜひ興味ある方は挑戦してみてください。

ちなみに私は説明書を読むのが嫌いです。市販されているゲームの説明書もめったに読みません。そのままパッケージを開けてプレーします。しかし、操作で困った事は無いので、やっぱりプロが作るゲームはすごいなあと思いました。

市民公開講座2013で南部雅幸教授が講演

医療福祉工学部健康スポーツ科学科の南部雅幸教授＝写真＝が9月20日、京都・精華町の国立国会図書館関西館で開催された関西文化学術研究都市6大学連携「市民公開講座2013」で、「携帯電話を用いた健康管理～スマートフォンでスマートになろう～」をテーマに講演しました。

講演で南部教授はまず「日本はすでに世界一の超高齢社会であり、生活習慣病大国である」と紹介し、「自分の健康は自分で守る」必要性を訴えました。

次に、ダイエットには運動による代謝（食べたものを酸素と結合させ熱を発生させる反応）が必要であることを説き、そのモチベーションを維持するためのスマートフォンによる研究を紹介しました。

南部教授は「ユビキタス・ヘルスケアシステムの実現で、スマートフォンを使いこなすことにより、体の情報を管理でき、スマートになるかどうかは別にして、賢く（スマートに）生活することができる」と話しています。

「りんくうにぎわいフェスタ2013」でトークショー＆出展

9月21～23日の3日間、りんくうパピリオ星の広場で、日本のマンガ・アニメ・おもちゃ・ゲームなどのポップカルチャーを情報発信する「クールジャパンフロントのまちづくり推進イベント『りんくうにぎわいフェスタ2013』」が開催されました。

このイベントで21日、総合情報学部 デジタルアート・アニメーション学科のいしぜきひでゆき教授が、兵庫県のマスコット「はばたん」の作者JUNBOw氏と「キャラクターをビジネスにどう活かすか」をテーマに、スペシャルトークショーを開催しました。

いしぜき教授は全国各地の「ゆるキャラ」を紹介しながら「キャラクターをヒットさせるキャラクタービジネスは、徹底した戦略とそれなりの経費投資と熟成期間が必要です。人気マンガ・アニメの舞台となっている場所をファンが訪れる聖地巡礼も、単にキャラクターを配置するだけでなく、その地域・企業の特色を背景・世界観のベースとして組み込んでいくことが大切なことです。さらにSNSなど多角的に新しい媒体を使い、情報や変化を動画で流していくことを地道に続けていくことで、息の長い展開や発展が期待できます」と語りました。

いしぜき教授（左）とJUNBOw氏

また、JUNBOw氏は、「被災地の子供たちに笑顔を届ける」のを目的に生み出されたキャラクター「わるタンプロジェクト」を紹介し、「わるタンは神戸発信の非公式キャラです。わるタンプロジェクトでは、大人もクスッとするような仕掛けがたくさんしてあります」と話し、差別化には仕掛けが大切なことを訴えました。

フェスタでは、電chu!（大阪電気通信大学中継チーム）が、グリーンバック合成体験ブースの出展とメーンステージの一部のインターネット中継を行いました。体験ブースでは、来場者にグリーンバック合成を体験してもらい、体験者はその場で出来上がった作品を携帯にダウンロードして楽しんでいました。

「水都大阪フェス2013」に摩訶大将棋ワークショップ

にぎわう摩訶大将棋ワークショップ

「水都大阪フェス2013」のイベントとして10月11日から4日間、中之島公園で開催された「動く・創る・対戦する体験型ワークショップ」に、高見研究室の甲斐誠也さんと中村直樹さんが摩訶大将棋を展示し、来場者と対戦してPRしました。

摩訶大将棋は鎌倉時代の古文書をもとに制作したもので、9×9マスの普通の将棋と違い19×19マスで構成されており、駒は50種・192枚。飛車の2回分動かせる鉤行（こうぎょう）や、角行と飛車を足した動きができる奔王（ほんおう）などユニークな駒も使い、場に「王子」がいると、「王将」が取られてもゲームを続けられます。

うめきたのイベントに映像作品を出展

9月30日～10月4日の5日間、グランフロント大阪北館のナレッジキャピタルにあるThe Lab.アクティブスタジオで開催されたイベント「『エアフローティングメディア』空中に浮遊する新しい映像表現」に、総合情報学部デジタルゲーム学科の学生が制作したCG作品が出展されました。

エアフローティングメディアは、特殊な光学素子を用いて空中に映像を結ぶことができる装置です。デジタルゲーム学科の学生は、この装置の特性を活かして「不思議な作品」を完成させ、プロのクリエーターの作品に交じって展示されました。

不思議な雰囲気を楽しむ来訪者

新天地in NEYAGAWA 2013で自治会吹奏楽団の演奏とプロジェクションマッピングを投影

10月19日、京阪寝屋川市駅前で「新天地in NEYAGAWA2013」が開催され、自治会吹奏楽団による演奏とJIAMS（先端マルチメディア合同研究所）によるプロジェクションマッピングの映像投影で会場を盛り上げました。

「新天地 in NEYAGAWA」は、「若者が元気の源となり国際交流を含めた若者同士の繋がりで地域を活性化する」との思いのもと、近隣在住の大学生などが主体となり毎年行われているイベントです。

自治会吹奏楽団の演奏では、多くの市民の方が迫力ある演奏に聴き入っていました。すべての演奏が終わると「アンコール」の声が湧き、「六甲おろし」の演奏で応えました。

また、プロジェクションマッピングは駅前のアドバンス寝屋川の建物壁面に迫力ある大画面で映し出され、動く画面と音響に感嘆の声が上がっていました。この映像技術はJIAMSと学生が、コンテンツ制作から機材設置、投影までの全工程を担当しました。

建物に映し出されたプロジェクションマッピング

四條畷市との協定関連イベント

「脱メタボチャレンジ教室」を実施

2012年9月に包括連携協定を締結した四條畷市の地域貢献の一環として、四條畷市立保健センターと共同で、65歳未満の市民を対象にした生活習慣病予防のための「脱メタボチャレンジ教室」を実施しました。

万歩計の説明をする大石教授

10月10日から1月29日までの全6回で、初回は医療福祉工学部健康スポーツ科学科の大石利光教授が「まず知ろう!自分の体」をテーマに講演しました。

チャレンジ教室では、大石教授が開発した「歩いたか走ったかを消費カロリーとともに日時を追って記録できる」万歩計を参加者に貸し出し、3カ月間にわたってUSBメモリーに記録された

学生の協力でデータを分析

データを分析して、健康維持・増進活動に協力しました。

「いきいき健康づくり～がんばれ中高年！　パートV～」に出展

四條畷市立保健センターが10月27日、四條畷市立西中学校で開いたイベント「いきいき健康づくり～がんばれ中高年!　パートV～」に、医療福祉工学部理学療法学科の吉田正樹研究室が協力し、「足の裏の状態の測定評価」を実施しました。

このイベントは、中高年を対象に健康づくりに取り組んでもらうきっかけづくりと、健康づくりの輪を広げることを目的として、開催されるものです。

高校の教科書に兼宗教授が開発したプログラミング言語が採用

総合情報学部情報学科の兼宗進教授が開発したプログラミング言語「ドリトル」が東京書籍発行の高等学校情報科用教科書「情報の科学」にソフトウェアの仕組みの例として、紹介されています。

教育用プログラミング言語「ドリトル」は、小中学校や高等学校で幅広く利用され、高等専門学校の入学試験などにも採用されています。

イルミネーションで活性化
寝屋川市駅前キャンパスと実験センター前

12月9日、寝屋川市駅前キャンパス前にて福田理事長、橘学長らが参加してイルミネーションの点灯式を行いました。

これはさわやかロードににぎわいを創出し、市民の皆さんと一緒に学生街を活性化するために設置されたもので、地道に努力している頑張り志向の学生をイメージしたものです。

近くを通りかかった市民の方から「この時期にふさわしく、きれいで夢があって楽しいですね。子どもたちにも見せたいです」とお話しいただきました。

このイルミネーションは1月17日（金）まで点灯します。この他に実験センター前にも設置しています。

講演する橋学長

電気関係学会関西連合大会開催

平成25年電気関係学会関西連合大会が11月16、17日の2日間、寝屋川キャンパスで開催されました。

大会では、橘邦英学長が「右脳を活用した実学教育の試み」をテーマに特別講演しました。また、一般講演では大阪電気通信大学の研究室から30件を超える発表が行われました。

主催は電気学会・電子情報通信学会・照明学会・映像情報メディア学会・電気設備学会の5つの関西支部で、会場の大阪電気通信大学が共催しました。

第2回みやこほっこり映画祭2013で「おかっぱちゃん旅に出る」を上映

大阪電気通信大学は、東日本大震災の復興支援の一環として、11月23日に岩手県宮古市の「ほっこりまちなかシアター」（りあす亭）で開催された「第2回みやこほっこり映画祭2013」を後援しました。

みやこほっこり映画祭は、東日本大震災で被災した宮古市の文化にかかわる市民や団体が中心となり、宮古の地と人がはぐくんできた美徳を地域の人々が再認識し、お互いを“ほっこり”と温めあいながら、復興を遂げるための取り組みの一つです。

「おかっぱちゃん旅に出る」は、学生制作による連続Webドラマとして、2010年から全8話をネット配信してきました。制作はプロスタッフの指導のもと、演出、カメラ・音響・編集・CGアニメーションなど全てのスタッフを学生が務めたもので、今回は劇場版を上映しました。

映画祭では、イベントとして、監督である総合情報学部・ナガタタケシ准教授と原作者兼主演のBoojil（ブージル）さんによるトーク「アーティスト・シネマナビ～自分を変える旅のはじまり～」と、Boojilさんによるイラストワークショップ「おかっぱちゃんと遊んでジョージ!」も行われました。

また、この映画祭で上映された「女たちの都～ワッゲンオッゲン～」では、メディア情報文化学科の卒業生・福嶋美穂さんがプロデューサー補として活躍しました。

イベント予告

学内・学外で開催される予定のイベント情報をお届けします。(2014年1月～)

卒業制作展～なわてん～

2013年度の総合情報学部の卒業制作展「なわてん」が開催されます。デジタルアート・アニメーション学科の第5期生、デジタルゲーム学科の第8期生が卒業制作展として、メディアコンピュータシステム学科が特別研究展として参加します。

・開催日:2月8日(土)、9日(日)
・会場:大阪電気通信大学 四條畷キャンパス

大阪電気通信大学 facebook はじめました

Facebook開設

大阪電気通信大学公式Facebookを開設しました。
公式ホームページでは紹介しきれない、身近なニュース、キャンパスの様子、在学生や教職員の活躍など、さまざまな出来事をお伝えしていきます。ぜひご覧ください。

Facebook公式URL
https://www.facebook.com/OECU.osakadentsudai

2014年度入試日程

試験種別		出願期間	試験日	合否発表
一般入試※	前期A・B日程	1月10日～1月21日 窓口:1月22日	A日程:1月31日 B日程:2月1日	2月11日
	センター方式前期	1月10日～2月3日必着	―――	2月15日
	後　期	2月10日～2月20日 窓口:2月21日および24日	3月1日	3月8日
	センター方式後期	2月10日～2月28日必着	―――	

※ 対象学部は工学部、情報通信工学部、医療福祉工学部、総合情報学部、金融経済学部

〒572-8530　寝屋川市初町18-8　大阪電気通信大学入試部
TEL:072-824-1131(代)　FAX:072-825-4589
E-mail:nyushi@isc.osakac.ac.jp

資料の入手方法
テレメール:050-8601-0101
PC・ケータイ:http://telemail.jp
＊請求資料番号　170411

四條畷キャンパスのバス停～裏門 防犯灯がつきました

大阪電気通信大学後援会により四條畷キャンパスのバス停から裏門までの学内の歩道に防犯灯＝写真＝8基が寄贈されました。これにより通学路の足元が明るくなり安心して通ることができるようになりました。ありがとうございました。

編集後記

2014年の新年を迎えました。この1年に何か成果はありましたかと尋ねると“就職が決まった”“資格が取れた”“研究がうまく進んでいる”と、うれしい答えが返ってきます。半面、目標がもう一歩かなわずブルーになっている人もいるようですが、今は1年の計を立てる時期なので、今年の抱負を見直してみてはいかがでしょうか。そのネタに本誌を参考にしてみるのもいいのかもしれません。皆様からのご意見をお寄せください。また、学生の皆様からの「学生の夢川柳」もお待ちしています。

広報部　kouhou@mc2.osakac.ac.jp